

山形県における少人数学級編制（教育山形「さんさん」プラン）

～一人一人の子どもに、より「耳を傾け、声をかけ、手をかける」丁寧な指導をめざし、学力の向上といじめ・不登校の未然防止をめざす～

橋づくりから人づくりへ

小中学校の義務教育段階では、30人程度の学級編制が望ましい。橋の一本や二本節約してでも、2～3年かければできる。
 -平成13年8月定例記者会見-
 (元山形県知事 高橋和雄)

+

県教育委員会の考え

いじめや不登校、特別支援、生徒指導上の諸問題を解決していくためには、生活の基盤となる「学級」をより少人数にしていく必要がある。また、子どもの学習は、生活と一体であり、安定した学級、良好な人間関係、教師のきめ細かな指導の中で学力も高まる。

山形県の「少人数学級編制」の誕生

- 特色1 義務教育9年間のすべての学年での実施をめざす。
- 特色2 学級編制基準を21人～33人とし、下限を設定する。
- 特色3 学年1学級で34人以上の場合は非常勤講師を配置する。

スタート

年度	少人数学級編制の推進経緯
H13	高橋知事少人数学級編制の実施を表明 ※国の方針（少人数指導）とは違ったが、許可をいただく。
H14	小学校1～3年生で実施
H15	小学校1～5年生で実施
H16	小学校全学年で実施 ※国の加配教員が少人数学級編制に活用できるようになる。
H17	中学校1年生で実施 ・少人数学級編制 ・少人数指導
H19	※少人数教育再構築会議で中学校3年生までの少人数学級編制を提言
H20	※吉村新知事「中学校3年生迄の少人数学級編制」マニフェストに掲げる。
H21	中学校2年生の一部で実施
H22	中学校2年生で実施
H23	中学校3年生まで全面实施（予定） ※義務教育課における少人数学級編制完成

の究全国少人数学級編制の検証を開催し、効果研究を続ける。

選択制

平成22年度 教育山形「さんさん」プランの概要

県内小学校312校 中学校113校

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
----	----	----	----	----	----	----	----	----

低学年副担任制

【小1プロブレム対策】

別室登校学習支援員配置

【不登校・別室登校対策】

少人数学級編制(21人～33人)

※学年1学級で34～40人の場合は非常勤講師を配置

中3
H22
一部実施
H23
全面实施

重点教科充実制

小5～中1

指導方法の工夫改善

【中1ギャップ・理数・外国語学力向上対策】
 小学校では専科体制、中学校ではTTができるようにする。

◇本プランに必要な教員の確保について

常勤教員については、第7次定数改善による指導方法の工夫改善のための加配教員を最大限に活用し、不足分を県独自に確保している。非常勤講師については、県独自で教員を確保している。

山形県における「少人数学級編制」の効果

山形県教育委員会

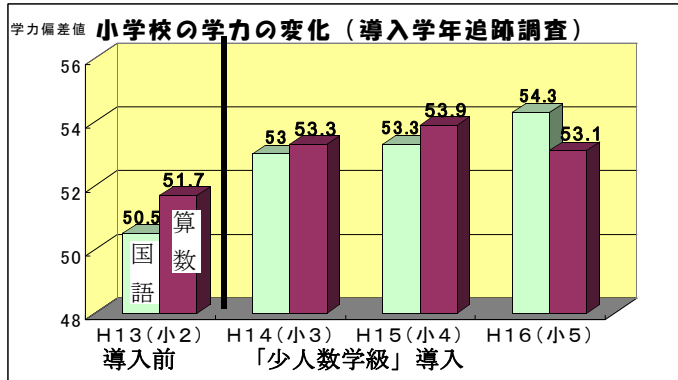
◇県独自調査「全国標準学力検査（NRT）の追跡調査」より

◇文部科学省「全国学力・学習状況調査結果」より

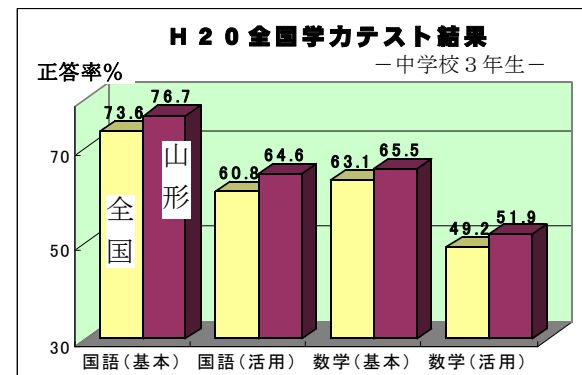
学力の向上

小学校への少人数学級編制導入後実施校学力(全国標準学力検査NRT)の平均が、導入前と比較して向上し、その後も高い水準を維持し続けた。

追跡調査を続けた子どもたちは、平成20年度(中学校3年生時)の全国学力・学習状況調査で、全国4位(国語)という結果であった。



全国学力
国語で
全国4位

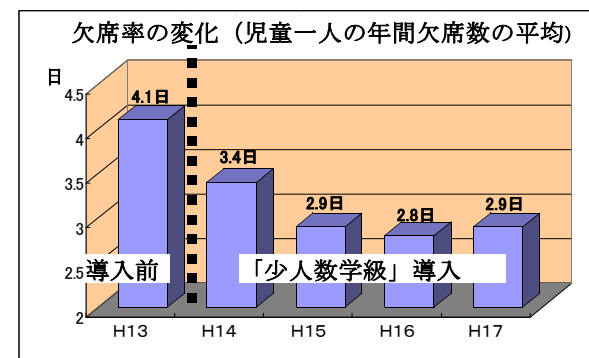
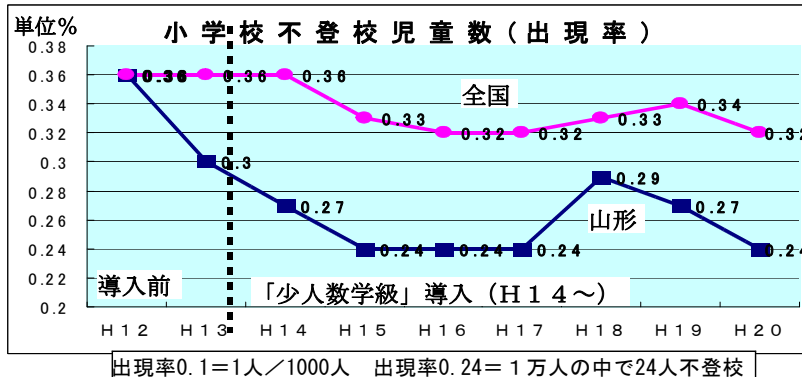


◇文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」より

◇県独自調査「児童の欠席日数調査」より

不登校の減少、欠席率の低下

不登校の出現率が、導入前は全国平均と同じであったが、H13年のやまびこプラン(少人数指導加配教員の配置)、H14の少人数学級導入後に下がり、その後も低い水準を維持している。また、欠席率も低下した。



◇効果が生まれた要因

制度が変わり→教員の意識が変わり→そして、授業が改善され、「効果」が生まれた。

①少人数学級編制

- 教室にゆとり
- 心にゆとり
- 担任業務にゆとり

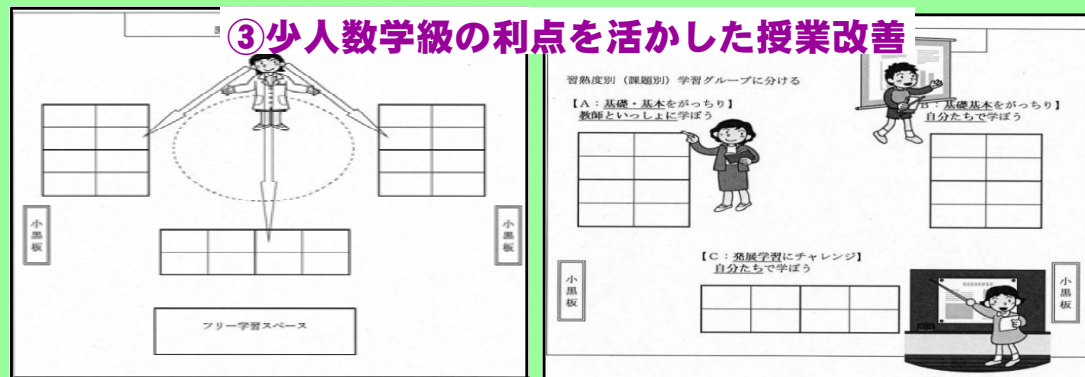
+

②教員の意識

- 耳を傾けよう
- 声をかけよう
- 手をかけよう

+

③少人数学級の利点を活かした授業改善



特集 教育山形「さんさん」プラン

少人数学級編制「中学校三年生」まで拡充

一人一人の子どもが「勉強がわかる、学校が楽しい！」と思える教育の実現をめざす



3年生（39名）の学習風景

学校が楽しいということ
それは、毎日の勉強がよくわかること
いじめや不登校などがなく
みんなが仲良く学校生活を送れること
先生が、一人一人の子どもにきめ細かな指導
をすることは教育の原点であり
楽しい学校を約束するものです。

山形県ではこのような信念を持って全国にさ
きがけ小学校から中学校一年生まで少人数学
級編制を実施してきました。
そして、今年度より中学校二年生に一部導入
し、平成二十三年度までには、「中学校三年
生」まで拡充することとしています。

ここでは、今年度中学校二年生までの少人数
学級編制の先行実施をした酒田市立第四中学
校の取組みを通して、一人一人を大切にす
る山形の教育を紹介していきます。

私の学校では今年度から中
学校2年生まで少人数学級編
制を実施できました。本来なら
1学級が39～40名のところ、
28～29名での学級編制が
でき、一人一人を大切に
した教育が実現できました。
教職員、保護者共に喜んで
おります。



酒田市立第四中学校長

②声をかける

一人一人の子どもに
自学自習の習慣化をめざす

単純ことですが、自学自習の習慣化をめざすため、親は声をかけ、教師は学習ノートにメッセージを書くことにより、子どものがんばりを支援しています。大切にしていることは、一人一人の生徒

に応じた声かけ、メッセージをおくることです。

四十人の学級から二十八人の少人数学級を担任した教師が次のように述べています。

学級の人数が十名以上少なくとも、学習ノートへの言葉が前より多くなったし、一人一人のことをよく考えて言葉をかけるようになった。

③手をかける

一人一人の子どもに
学力の向上をめざす

酒田市立第四中学校では、少人数学級だと勉強にやる気が出ると答えている生徒が多くいます。これは、一人一人の生徒に教師が適切な指導をしている成果ととらえることができます。

特に大切に行っていることは、すべての生徒に対し一律に手をかけるのではなく、必要な生徒に必要な支援をしているということです。このような支援は、生徒の声をよく聞き、生徒の様子をよく見ている教師だからできることです。

少人数学級と山形県の教育展望

山形県教育委員会委員長 長南博昭

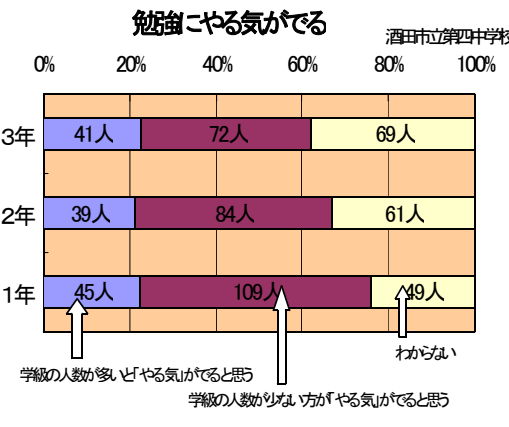
少人数学級編制は、県民のご支援を受けて実現したものです。現在、期待どおりに、子どもの生活にも良い影響を与えており、学力の向上や不登校の減少、欠席率の低下など、着実に子どもの変容につながっています。

私は、これまでも、そしてこれからも、少人数学級編制による教育には、生活集団の機能を重視した指導を期待しています。子どもにとっては、学習と生活は一体的なものであり、共に生活する仲間と、苦勞しながら、みんなで知恵を出し合い、協力して「わかった！できた！」という充実感を味わわせることが、その後の人生にプラスになると信じています。

“教育山形「さんさん」プラン”は、学習と生活が一体となった教育をより強化する仕組みであり、子どもの「学ぶ力」を真に育てることができる日本の伝統的な指導形態です。

今、中学校3年生まで、段階的に拡充・実施できる見通しとなったことに、保護者をはじめ、皆様と共に大きな期待を抱いています。

義務教育9年間を通した「少人数学級編制」の実現は、一人一人を大切に山形の教育をより一層強化していくこととなります。さらに、一人一人の子どもを最大限に伸ばしていくためには、学校、家庭、地域が三位一体となって取り組むことが大切であり、そのための「教育の仕組み」も確立すべきであると考えております。



表現し合う授業を

ここ三年間の全国学力・学習状況調査結果をみると、山形の子どもの「考える力」「表現する力」をつけていく必要があります。それには、子ども同士が精一杯考え合い、表現し合う授業をつくるのが大切です。教師が教え、覚えるという授業から、子ども同士が学び合い、知識・技能を習得していく授業です。

これまで以上に子ども理解が必要になります。子どもが学ぶ姿をよく見、子どもの声をよく聞いて必要な子どもに必要な支援をしていかなければなりません。

このような観点から、本県では、少人数学級による授業をより一層充実してまいります。

◇酒田四中の取組実践例

- 酒田市立第四中学校では、二年生まで少人数学級編制が実施されこれまで以上に教師が生徒たちに
- ①耳を傾けよう
 - ②声をかけよう
 - ③手をかけよう
- という具体的な目標を掲げて取り組みました。

①耳を傾ける

一人一人の子どもに
不登校の未然防止をめざす

授業や日々の生活、生徒の日記やノートなど生徒の話を聞く、生徒をよく知る努力をしています。大切にされているという安心感で、特に、少人数学級編制の学年では欠席率が低くなっています。

今年度の欠席率%

月	1年(33名)	2年(29名)	3年(38名)
4月	0.5	0.6	1.3
5月	0.6	1.3	1.7
6月	1.3	1.5	2.3
7月	0.7	1.1	2.7
8月	1.5	1.8	2.2
9月	0.7	1.4	2.8

※()内は編制前